

令和6年度第1回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和6年(2024年)10月2日(水) 14時00分から15時30分
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 加賀学(会長)、今野典之、笹島香織(副会長)、今木由香、佐藤寛之、松岡準志、後藤眞美子、中村博明、若林洋 計9名(欠席 持田誠、伊藤美也子、野祥子)
- 4 事務局 川端雄一(館長)、友田浩貴(副館長)、瀬戸厚志(学芸課長)、吉田昌代(主査)、鎌田大遙(主事)
- 5 傍聴者 なし

6 議 事

館長挨拶、交替委員及び転入職員紹介の後、会長の進行により議事に入る。

- (1) 副会長の選任
- (2) 令和5年度事業の実施状況及び美術館評価について
- (3) 令和6年度事業の運営計画及び実施状況等について
- (4) 協議・意見交換
- (5) その他情報提供
 - ・改修工事の概要及び進捗状況について
 - ・教育普及事業「オンラインアート教室」の取組状況について
 - ・北海道美術品サポーター制度について

7 議事録

(1) 副会長の選任

前副会長の退任に伴う副会長の選任について事務局案を提示し、笹島委員を副会長に選任

- (2) 令和5年度事業の実施状況及び美術館評価について
- (3) 令和6年度事業の運営計画及び実施状況等について
- (4) 協議・意見交換

(2) 及び (3) について、事務局より説明及び委員からの質問等に対し、事務局から回答

委 員：オンラインアート教室に参加している学校が資料に示されている。この事業内容を道内の学校に周知するのは難しかったと思うが、参加した学校はどのようなきっかけで参加することになったのか。

事 務 局：当館で行っているオンラインアート教室は2種類あり、全道の道立美術館が一斉に行うものと、帯広美術館で独自に開催しているものがある。全道一斉のものは、年度当初に北海道教育委員会から全学校に通知し、希望のあった学校で実施している。当館独自のものは、随時当館に申し込みいただき、全道くまなく応募していただいている。ホーム

ページにも公開しているので、そういったところで情報を得て、参加される学校が多いものと考えている。

委員：小学校が対象となっていないのは、小学生には内容が難しいからなのか、あるいは中学校以降には美術の専門の先生がいるからなどの理由があるのか。

事務局：小学校も事業の対象になっており、例年は申込みがあるが、たまたま今年度はなかった。今後とも広く小学校にもPRしていきたい。

委員：帯広美術館独自の事業は随時募集しているとのことだが、ホームページで周知しているということか。

事務局：今年度のオンラインアート教室については、十勝、釧路、根室、オホーツクの各教育局を通じて学校に連絡している。

委員：今はSNSで情報を捉えている方が非常に多い状況であり、帯広美術館の取組を広く多くの方に知っていただくために「X」を開設したのはとても良いことだと感じている。今年度の美術館評価の項目中、SNSの投稿数というものがあり、指標値には過去5年の最高値が用いられているが、今回、プラットフォームが増えたので、もう少し高みを目指しても良いのではないかと思う。また、Facebookと「X」では使い方が違うところがあり、「X」はかなりまめに情報発信することが定着を生むことになっているので、これまでのFacebookだけよりもかなり細かく、美術館の周りの落葉の様子などの季節感などを伝える投稿だけでも非常に有効なので、指標値の見直しも検討する余地があれば考えても良いのではないか。

事務局：ただいまの御指摘のとおり、投稿のプラットフォームが増えたので、指標値の見直しを検討する必要があるが、今回の指標値については、既にこの内容で道教委に報告済みであり、今年度はこの目標に向けて取組を行うことになるが、Facebookのほかに「X」では、展覧会の開催時に作品のPRや美術館の混雑状況、季節の話題など色々な投稿が考えられるので、今はまだ開設して間もないので少ないが、どんどん投稿して帯広美術館をPRしたい。そして来年度は、そのことを踏まえた上で、指標を設定していきたい。

委員：SNSのいいところは自ら発信するだけでなく、発信を受けた人が更に広げていくことにあり、フォロワーの数をいかに確保するのかということである。美術館が発信した情報を更にフォロワーに広めてもらうことで、より効果的に広報できるので、今後余地があれば、評価指標にフォロワー数を入れていただくことをも検討して欲しい。

委員：「X」を導入されたとのことだが、同じ使い方が出来る「Threads」というものがある。私が、「X」で投稿したのを「Threads」にも投稿すると、「X」で反応がなくても「Threads」だとすごくコメントしてくる方がいるので、もしかしたら、両方使い分けることで、認知度を上げるのに有効かもしれない。「Threads」はFacebookの会社が運営しているので、もしかしたら、連動しているのかもしれない。

事務局：「Threads」とうものを初めて聞いたので、まずは情報収集してみたい。道の基準で「Threads」が使用できるかどうかは分からないが、「X」を開設したからといって安心するのではなく、引き続き多様な広報手段を模索していきたい。

(5) その他情報提供

- ・改修工事の概要及び進捗状況について

- ・教育普及事業「オンラインアート教室」の取組状況
- ・北海道美術品サポーター制度 について、事務局より説明及び委員からの質問等に対し、事務局から回答

委員：こちらのミュージアムショップで購入した雑貨（小銭入れ）を支払いのときに出すと「何それ、かわいい、どこで買ったの」と言われるので、「実は帯広美術館なんだよね。」と答えている。小売りが目的ではないと思うが、こういったものをうまく使うのもっと地域に溶け込むのではないかと思う。

委員：オンラインアート教室はとてもよい取組だが、今後、拡大していく方針なのか。

事務局：オンラインアート教室の前身は出張アート教室という、美術館の所蔵作品を学校若しくは社会教育施設等に持って行って講座等を行うというものである。それが、コロナ期に対面で行うことが難しいということになり、オンラインに切り替わり、現在も継続しているところ。これからもこのスタイルは続いていくと思うが、やはり美術館としては本物を見ていただくという使命があるので、これには一つジレンマがある。今後はこういったツールを活用し、事業とうまく連携し、興味関心を喚起し、美術館の来館につなげていけるような事業にブラッシュアップしていくことが望まれるが、オンラインアート教室自体は今後も拡充していくものとする。

事務局：追加で御説明するが、美術館以外で埋蔵文化財について、オンラインを活用した見学が行われている。修学旅行において、埋蔵文化財を見学するというような体験活動が従来から行われているが、障害があって修学旅行に行けないという方々もいる。その際に3Dの技術を使って、学校にいながら埋蔵文化財を見学するようなことも北海道教育委員会では近年取り組み始めている。今後のICT技術の進歩に伴い、よりリアルに3Dで美術品の鑑賞ができる様な環境を整えば、現在、行っているオンラインアート教室の2次元的な映像の鑑賞ではなくて、よりリアル感を体験できるような鑑賞機会の提供も可能となってくるかもしれないので我々も期待している。費用対効果の面も考慮しなければならないが、本庁主催の会議などの場で、オンラインアート教室の今後の方向性について、意見を述べる機会があるので、今後のICT技術の進化を踏まえた鑑賞機会の確保についても検討してみてもどうかと提言することを考えている。

委員：学芸員としては本物を見て欲しいとのことだが、他方で私どもの施設の見学を学校から要望されることがあっても、コロナの時期はご遠慮していただいていたが、最近、学校側としても授業時間や交通手段の確保の関係からハードルが高くなる中で、オンラインであれば是非参加したいという声をいただいている。学校にとっては、オンラインというのは、ハードルが下がるきっかけになるのではないか。2次元的なものをどうリアルに繋げるのかというのは我々も番組をつくる上での大きなファクターの一つであり、そういう意味で言うとオンラインアート教室と美術館に実際に足を運んでいただくというようなことを融合させることができれば、利用者にとっても美術館にとってもウィンウィンの関係になるような将来が見えてくると思うので、是非、その辺りを検討いただきたい。

委員：オンラインアート教室について、学校以外に社会教育施設とも連携しているという話が

あったが、具体的どのような社会教育施設と連携した実績があるのか。

事務局：前年度においては、社会教育施設や老人学級などつなげて講座を行ったという事例があるが、今年度は社会教育施設からの申込がなかったため、今後、積極的にPRしていきたい。

委員：社会教育施設でこういう施設が向いているとか、例えば図書館でやったらどうかとか、具体例、予定や案はあるのか、それともあくまでも申込みがあった施設で実施との考えなのか。

事務局：実は今年は、オンラインではなく、実際に職員が出向いてお話をする講座の方は、数件の申込みが来ている。こういった社会教育施設がオンラインに向いているのかということについて、まず一つ目には、遠隔地であれば訪問しにくい所にもお話を届けられるのではないかと、また、二つ目は、数人のサークルなどでも活用いただければ、より手軽に美術館のお話を届けられるのではないかと、そうした要件が考えられる。

委員：プログラムは希望する団体等が選べるのか、それとも、今実施しているプログラムが示されて、それに応募する形になるのか。

事務局：プログラムについては、どの段階でも自由に選択することが可能。また、展覧会を開催している間は、その展覧会についての解説といった希望も受け付けている。

委員：我々、学校教育関係施設もインターンシップや作品鑑賞、その中でのワークショップ等で美術館にはお世話になっていたが、やはりコロナ禍で1回途切れてしまい、色々なプログラムや授業時数との兼ね合いでどうしても実際に来て美術館を利用するところまで戻っていない状況にある。移動時間であるとか、授業時数も限られている中で、活用していくためにはオンラインという新たな手法でと思っているが、なかなか帯広市内の小・中学校もそこに至っていないのが現状なので、こういう取組みを校長会議等で周知し、せっかく十勝にある、こういう教育効果の高い施設を我々も活用して行く方向で、話を進めていきたい。

委員：私はこちらでボランティア活動をしている「しらかばの会」の会員だが、7月からずっと屋根の修繕のためお休みしている。資料の29ページの設備の快適性の向上のところ、レストラン喫茶に対する満足度、ミュージアムショップに対する満足度が87.5%と78.8%なのを100%にすることが目標と書いてあるので、11月からの開催にあたって、なるべくこれに近づけられるよう、頑張りたい。

委員：初めて出席したので、色々なお話を聞いて、なるほどと思ったが、こういった事業をPRしていきたいと思っている。商工会議所の会議に出る各企業、地域の中小企業に勤めている皆様方にこういった機会を周知していくなど、そういったところでお役に立てると思う。4月から6月に開催した星野道夫展については、会頭も気合いが入り、各企業の方にPRし、入場者が2万人を超える数字になったということで、我々も非常に喜んでいる。今後も美術館と協議をしながら、色々なことにチャレンジしていきたい。

委員：今年の夏に私の町内会で、寺子屋というものを、町内会長と一緒に始めた。その寺子屋というのは、お年寄りを町内の会館に集めてみんなでお茶を飲みながら遊ぼうというものである。私も参加して、ふとその中で、1回みんなを美術館に引き連れてきたらどう

なんだろうという気がしたので、違う人と話をしたら、「いやあ、美術館にはちょっと縁がないな」と、行ったこともないという方が、お年寄りの中にはほとんどだった。来年は町内会長とも話を進めて、ぜひ何か行動ができたらと思っている。実現するかどうかかわからないが、町内の面白い行事になるのではないかと思う。

委員：オンラインアート教室についての話になるが、大谷短期大学では音更町と共同で生涯学習講座を実施しており、コロナになってからはオンラインで実施する様になって、昨年度から対面を再開したが、同時にオンラインも並行して実施するようにしたら、大体半分ぐらいはやはりオンラインで受けるという方が多いので、これからはオンラインの活用も普通になってきているという印象がある。美術館で実際に実物を見ることが大事だと思うが、やはりオンラインも同時に続けていく必要があるのではないかと自分の職場でも探りながらやっている。逆に短大の一般向けの生涯学習講座で、美術館のオンラインアート教室を活用するのも一つの方法ではないかと思っている。短大側に私の方から提示してみようかと、一般の方は、色々勉強したり学びたい、知りたいというのが多いが、美術館ネタというのはあまりなかったような気がするので、今回このように考えた。また、私は元々博物館学芸員に縁があるので、例えば昨年度、リニューアルした「音更ふるさと資料館」は少し小規模だが学芸員を配置していて、そちらでも博物館講座を実施しているが、2ヶ月に1回ぐらいで、オンライン配信も充実しているので、そういう小さな博物館にもアピールして、博物館側も美術館利用というのを、オンラインで実施してもいいのではないかと思う。それで関心があれば、実際に見に行ける場所にあるということでは、十勝管内の小規模博物館の利用もあるのではないかと思った。方向性はズれるが、病院に入院している患者さんのオンラインアートの利用も面白いのではないかと、私も入院したことがあるのでわかるが、ずっと中にいると退屈なので、視点を変え美術鑑賞を利用してみるのも面白いと思う。

委員：今日会議が始まる前に美術館の外回りの様子を見てきた。先ほどの工事の進捗状況についての説明では、11月から再開ということだが、であれば、工事の工期は今月中旬ぐらいかと思うが、順調に工期までに終わる見込みなのか。

事務局：工期は11月中旬までとなっているが、後半は事後処理となっている。本体工事が終わって足場を解体するまで10月一杯で終了するというようになっており、天候に左右される工事なので、多少の前後はあるものの今のところ順調に推移しており、11月1日からの新規の展覧会には間に合うようになっている。

委員：オンラインアート教室の教育機関、学校との連携ということであると、学校の方では年度途中で新たにそういうものを行事に入れるというのは非常に厳しい。大体、新年度の年間の教育課程は、大体、2月から3月上旬ぐらいまでに組むので、そういったことにも留意するようお願いしたい。